

上越教育大学初等教育教員養成における初等理科指導法・教職実践演習ルーブリック

事項	【上越教育大学スタンダード】 教員として求められる教科等の 指導力に関する事項	初等理科指導法・教職実践演習ルーブリック		
		First Stage	Second Stage	Third Stage
到達 目 標	教科書の内容を理解しているなど、学習指導の基本的事項（教科等の知識や技能など）を身に付けている。	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校理科教科書の内容を十分に理解している。（知識） ・小学校理科の観察・実験で使用する器具を正確に取り扱うことができる。（技能） ・観察・実験で得られた結果を適切に処理し、考察することができる。（科学的思考） 	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校理科教科書の内容に関連する科学概念を指摘し、説明することができる。（知識） ・小学校理科の観察・実験について、計画、実施、考察までを一人で通して行うことができる。（技能） ・観察・実験の結果および考察を基にして、科学概念を説明することができる。（科学的思考） 	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校理科に関連する科学概念を、児童の日常生活や経験と結びつけたり、社会で応用されている場面を探したりすることができる。（知識） ・小学校理科の内容に関連する新たな観察・実験および教材を自ら考案・開発できる。（技能・科学的思考）
	板書、話し方、表現など授業を行う上での基本的な表現力を身に付けている。	観察・実験を取り入れた授業において、児童の発達に応じた板書や話し方等を身に付けている。	観察・実験を取り入れた授業において、板書を基本としてICT等の種々のメディアを活用しながら、児童の発達に応じた指導ができる表現力を身に付けている。	児童の知識・理解の深化や問題解決能力等の育成の観点から、板書やICT等、種々のメディアを活用し、児童の発達や実態に応じた授業を実施することができる。
	子どもの反応や学習の定着状況に応じて、学習形態等を工夫することができる。	子どもがいだく素朴概念や陥りやすい間違い等を理解して学習指導計画が立案できる。	素朴概念の実態や子どもの理解等の状況に応じて、適切な観察・実験の形態を導入した学習指導計画が立案できる。	知識・理解の深化や問題解決能力の育成等、授業のねらいに応じた学習形態を効果的に駆使して授業を実施することができる。
	全体計画及び年間指導計画の作成に当たっては、学校における全教育活動との関連の下に、教育活動を創造し、展開するための基本的事項を身に付けている。	1年間の学習内容を見通したうえで、各単元の指導計画および各時間の指導案を作成することができる。	理科の各単元を再構成し、季節や児童の発達を考慮した飼育・栽培、野外観察等の長期的な活動も導入した年間指導計画を立案することができる。	1年間の理科の学習内容と校外学習や総合的な学習の時間を照らし合わせとうえて、両者を関係付けた年間指導計画を立案することができる。